

がん検診の賢い受け方～がん検診のメリット・デメリットを知っていますか？

年に1度のがん検診・人間ドックを是非受診ください。



【がん検診のすすめ】

下記のがん検診は、死亡率減少効果があることが認められています。

定期的な検診を心がけ、確実に受診しましょう

【国が推奨する5つのがん検診】

種類	対象者	受診間隔	検査項目
胃がん検診	50歳以上 (※1)	2年に1回 (※2)	問診、胃部X線検査 または胃内視鏡
肺がん検診	40歳以上	年1回	問診、胸部X線 および喀痰細胞診
大腸がん検診	40歳以上	年1回	問診、便潜血検査
子宮頸がん検診	20歳以上	2年に1回	問診、視診、子宮頸部の 細胞診および内診
乳がん検診	40歳以上	2年に1回	問診 マンモグラフィー検査

※1) 当分の間、胃部X線検査は40歳以上に対して実施可
※2) 当分の間、胃部X線検査は年1回実施可

**胃部X線検査
(バリウム検査)**

造影剤の**バリウム**と胃を膨らませる**発泡剤**を飲んで、胃の内部をレントゲン撮影します。

のための指針

**胃内視鏡検査
(胃カメラ)**

口または鼻から小型カメラのついた細い管を挿入。**食道・胃・十二指腸**の状態を直接確認することが可能です。

胸部X線検査

肺のレントゲン検査

便潜血検査

検便を行い、便に血液が混ざっていないか調べる検査。通常、**2日分**の便を採取します。

細胞診

先にブラシのついた専用の器具で、子宮頸部を軽くこすり、細胞を採ります。異常な細胞がないかを顕微鏡で調べる検査です。

マンモグラフィー検査

乳房を2枚の板ではさみ、**乳房全体をX線で撮影**する検査です。痛みを強く感じる方は、胸の張りを感じやすい**月経前**を避けて検査するのがオススメです。

【がん検診のメリットとデメリット】

<メリット>

- 最大の利益は、早期のがんを見つけ、早めに治療を行うことで、がんによる死亡率を低下させることです。
- がん以外の病気も見つけることができ、治療に結びつけられます。
- がん検診の結果、「異常なし」と判定されれば安心して生活することができます。
- その他の利益としては、対象となるがんの罹患率の減少、早期発見による生活の質(QOL)の改善、治療する範囲の軽減、医療費が安くすむことなどがあげられます。

<デメリット>

- がん検診でがんが100%見つかるわけではありません。(偽陰性)
- がんがなくても検診の結果「陽性」となる場合もあります。(偽陽性)
- 結果的に不必要な治療(過剰診断)や検査を招く可能性があります。
- 検査に伴う偶発症(事故、副作用等)の問題があります。
- 受診者の精密検査が必要なことにより、不安を感じるなど心理的影響があります。

がん検診にはメリットだけでなく、デメリットもあるのです。それでも、がんから命を守るためには、がん検診を受けることが大変重要です。

精密検査までががん検診！

- がん検診で要精密検査と判定された場合、それは「がんの疑いがある」という状態です。より詳しい検査を行い、本当にがんがあるかを調べる必要があります。
- がん検診は、「要精密検査」という結果が出た場合は、精密検査まで受けることで始めてメリット(死亡するリスクの減少)につながります。必ず受診しましょう！
- 検診の結果が「精密検査不要」、精密検査の結果が「異常なし」であった場合でも、次回の検診を受けましょう。がんを早期発見するためには、定期的な検診の受診が大切です。